1975年東大理[] 文[] 共通

三角形 OST において、ST=a, OS=b, OT=c, $\angle SOT=\theta$ とする。

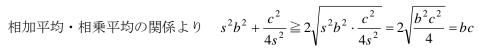
辺 OS, OT 上にそれぞれ点 P, Q があり、OP = sb, OQ = tc $(0 \le s \le 1, 0 \le t \le 1)$ とする。

三角形 OPQ の面積が三角形 OST の面積の半分になるとき

$$\frac{1}{2}stbc\sin\theta = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}bc\sin\theta \quad \therefore st = \frac{1}{2}$$

余弦定理より $PQ^2 = s^2b^2 + t^2c^2 - 2sb \cdot tc\cos\theta = s^2b^2 + t^2c^2 - bc\cos\theta$

$$\cos\theta = \frac{b^2 + c^2 - a^2}{2bc}$$
 であるから $PQ^2 = s^2b^2 + t^2c^2 - \frac{1}{2}(b^2 + c^2 - a^2)$



等号が成立するには
$$s^2b^2=\frac{c^2}{4s^2}$$
 $s^4=\frac{c^2}{4b^2}$ $\therefore s=\sqrt{\frac{c}{2b}},\ t=\sqrt{\frac{b}{2c}}$

ここで、b, c を 25, 32, 36のいずれから選んでも、0 < s < 1, 0 < t < 1が成立。

$$s = \sqrt{\frac{c}{2b}}, t = \sqrt{\frac{b}{2c}}$$
 のとき、 PQ^2 は最小値 $bc - \frac{1}{2}(b^2 + c^2 - a^2) = \frac{a^2 - (b - c)^2}{2}$ をとる。

$$a = 25 \ \ \ \ \ \ \ PQ^2 = \frac{625 - (36 - 32)^2}{2} = \frac{609}{2}$$

$$a=32$$
とすると $PQ^2 = \frac{1024 - (36 - 25)^2}{2} = \frac{903}{2}$

$$a = 36$$
 とすると $PQ^2 = \frac{1296 - (32 - 25)^2}{2} = \frac{1247}{2}$

PQが最小になるのはa=25のとき。このとき、上記の頂点Oは頂点Cに当たり、P, QはCB, CA上にある。

$$b=32$$
, $c=36$ とすると $s=\sqrt{\frac{36}{64}}=\frac{3}{4}$, $t=\sqrt{\frac{32}{72}}=\frac{2}{3}$

P が CB を 3:1に内分し、Q が CA を 2:1に内分するとき、PQ は最短になる。 …… (答) P と Q が逆でもよい。

